第４回　理事会

日　時：令和５年７月19日(水)13：00～16：50

場　所：学会事務局(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)，清水副会長，北田副会長，
末永常務理事，稲垣，大谷，大津，小俣，笠，
佐々木，西山，長谷川(淳)，長谷川(信)，林，
平野，舩山，升元，三田村，三好，村上，和田
各理事，野村，緒方各監事

欠席者：池見，太田，竹村，徳永各理事
(理事25名中21名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認
   - 令和５年６月16日開催の令和５年度第３回理事会の議事録案について承認した.
2. 審議事項

１)会員状況の確認
- 事務局長より説明があり，審議の結果，正会員10名，学生会員１名，賛助会員１社の入会を承認した.
- ７月19日時点において，正会員1,829名，学生会員52名，名誉会員65名となり，総数は1,946名であることを確認した.
- 海外への赴任等の理由で退会を申し出た場合には，学会誌の海外への送付は可能であることに留意することを確認した.

２)委員の新任について
- 常務理事より説明があり，審議の結果，編集委員会の１名の新任，事業企画委員会の１名の新任，国際委員会の１名の新任の合計３名の新任について承認した.

３)令和５年度研究発表会での秋田大学の学生の参加費について
- 担当理事より説明があり，審議の結果，今年度研究発表会の開催地でもあり，研究発表会の後援を頂いている秋田大学の学生の参加費を無料とすることについて承認した.

４)地盤工学会「地盤工学と応用地質学の協働」への共催について
- 北田副会長より説明があり，審議の結果，８月31日に開催される地盤工学会主催のシンポジウムについて，本学会が共催とすることを承認した.
- 北田副会長より，地盤工学会「応用地質学と地盤工学の協働に関する会長特別委員会」で取りまとめられている５項目の提言とアクションプランについて補足説明があった．和田理事より，シンポジウムにおいて「学問のダイバーシティ」について話題提供の予定があり，内容について事前に理事会に確認頂くとの説明があった.
- シンポジウムのプログラムの第３部に「今後の融合のためのディスカッション」とあるのは，融合ではなく協働の方が良いのではないかとの指摘がなされた.

3. 本部からの報告事項

１)収支状況について
- 事務局長より，令和５年度５月，６月分の収支状況の説明があり，例年と概ね同様の収支状況であることが確認された.
- 事務局長より，総会・シンポジウム及び第９回応用地質技術入門講座の収支についての説明があり，いずれも黒字の決算であったことが確認された.

２)令和５年度定時社員総会・シンポジウムについて
- 常務理事より，令和５年度定時社員総会の結果に関して，学会誌記事と議事録を用いて説明がなされ，２件の決議事項が承認されたことが確認された.
- 担当理事より，令和５年度シンポジウム開催結果に関して，学会誌記事を用いて説明がなされた．186名の参加を得て盛況裡に終了したことが確認された．今回の主催委員会の委員長である和田理事より，シンポジウム時のアンケート結果を今後のダイバーシティ推進委員会の活動の参考にしたいとのコメントがあった.

３)委員会，研究部会，支部名簿について
- 常務理事より説明があり，理事・監事の名簿について，修正点等あれば末永常務理事に連絡することとなった.

４)イベント開催に伴う広報およびCPD申請・登録方法について
- 常務理事より説明があり，今後イベントを開催する際には，標記のマニュアルに沿って広報やCPDの発行を行うこととなったことを確認した.

５)令和５年度研究発表会について
- 担当理事より，標記に関する会告案の説明があり，今回から事前参加申し込みに加え，当日参加申し込みを復活させたことが確認された.
- ７月19日に発生した秋田県の洪水災害について，発生の状況や原因に関し，一般市民に向けて解説してはどうかとの提案があった．議論の結果，応用地形学研究部会と災害地質研究部会で空中写真・衛星写真等を用いた災害状況・原因解説のためのポスターを制作し，企業ブースのスペースに展示することとなった.
- 村上理事より，今回の秋田県の洪水災害について，現地調査の予定があることが報告された．林理事からは，現在，進行中の災害であり，今後も発生する

可能性もあることから，研究発表会までに取りまとめることができるか不明であるとのコメントがあった.

・長谷川(淳)理事より，若手交流会について説明があった．若手参加に向け，協力頂きたいとの要請がなされた.

・村上理事より，今回の研究発表会について，会場の「あきた芸術劇場ミルハス」からイベントスケジュールの掲載があったことの紹介があった.

6)研究企画委員会運営規程改定に向けた検討について

・常務理事より説明があり，今後，研究企画委員会で検討がなされることが確認された.

・研究企画委員会運営規程の改定ではなく，研究小委員会運営規程を別途制定した方が良いのではないかという意見が出された．また，研究小委員会に関する内規は存在しないのかという質問があった.

・上述の意見も踏まえ，研究企画委員会で議論・検討を行い，次回以降の理事会に諮ることとなった.

7)日本学術会議からの報告について

・常務理事より説明があり，内閣府大臣官房総合政策推進室と日本学術会議のやりとりについて確認された.

・会長より，日本工学会の理事の立場では日本学術会議の情報が頻繁に共有されるため，必要があれば提供するとの申し出があった.

8)防災学術連携体からのお知らせについて

・常務理事より説明があり，８月８日に開催されるシンポジウムの内容について確認された.

9)他学協会からの依頼

・常務理事より，土木学会 岩盤力学委員会からの引用・転載に関する許諾依頼，ならびに土木学会出版事業課からの転載許可依頼について，総務委員会で承認されたことが報告された.

・常務理事より，関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団からの助成事業の募集について紹介があった．ホームページ・ニューズリストで広報することとなった.

10)その他

・担当理事より，ホームページのサーバ更新に関し説明があった．現在サーバの移行は完了しているものの，新しいサーバへの切り替えは10月８日になること，この期日までメーリングリストの更新は不可であること，新サーバでの静的・動的コンテンツ等の機能確認を行っていくことが紹介された．また，10月８日の切り替え期日までに修正した内容に関しては，切り換え後に担当者自身で修正対応をお願いしたいとのことであった.

4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

1)総務委員会

・７月14日開催の委員会議事録案，７月５日開催のCPD連絡会の議事録が提出された.

・常務理事より，現在の総務委員会における検討事項として，支部再編の要否，会員種別・会費制度の見直し，研究部会運営規程の改定が挙げられることが報告された.

・支部再編の要否については，北陸支部内で実態を調査頂くことになっていることが確認された.

・会員種別・会費制度については，以下の意見が出された.

①一般会員に対する制度と名誉会員に対する制度は分けて議論すべきである．また，永年会員は無料にすることを取り入れた方が良い.

②会費を上げるということもパラメータとして考えた方が良い.

③高齢の方が活躍できる場を提供する方策を考えた方が良い.

④将来構想検討特別委員会で出前授業や大学講習会のアイディアが出てきているが，具体的な実施方法や水平展開については未検討となっており，シニア会員の活躍の場となるのではないか.

⑤観光協会等と協力して，インバウンドの方々に地質を紹介するイベントを企画してはどうか.

⑥高齢の方の引き留めよりも，若手を多く入会させる方策を検討すべきではないか.

・引き続き，総務委員会で検討を行うこととなった.

2)事業企画委員会

・７月４日開催の委員会議事録案が提出された.

3)研究企画委員会

・７月６日開催の委員会議事録案が提出された.

・担当理事より，現在の委員会での議論として「先端技術ワークショップ」が挙げられること，今年度は「地震」をテーマとし，基調講演を東北大学の遠田教授に依頼する予定であること，話題提供の候補を検討していることが紹介された.

4)ダイバーシティ推進委員会

・７月10日開催の委員会議事録案が提出された.

・担当理事より，現在議論されている項目として，本年度第１回，第２回キャリアデザインセミナーが挙げられること，第１回は８月23日に開催されるため参加・宣伝頂きたいこと，第２回は演者の候補を検討していることの紹介があった.

5)社会貢献と魅力発信に関する特別委員会

・７月14日開催の委員会議事録案が提出された.

・常務理事より，現在委員会で議論されている内容として，ジオツーリズム等，応用地質学・日本応用地質学会の魅力発信に向けた方策を検討していることが紹介された.
・ジオツーリズムは重要であり,「地球の歩き方」など,様々な媒体とコレボレーションしてはどうかとの意見が出された.

6）将来構想検討特別委員会
・５月19日開催の委員会議事録が提出された.
・担当理事より,「研究部会ユース」について説明があり，各研究部会の部会長である理事から意見を聴取した.
・応用地形学研究部会では，近年30代の若手の参加が増えており，活性化している．部会が実施する巡検に合わせて，地形に興味がある会員に声を掛けていること，応用地形学研究部会で作成した巡検マップを紹介すること等により参加頂くことになっている.
・土木地質研究部会では，出版物を発行する計画があり，参加人数を増やしているが，人数が増えすぎて会合が開きにくい状況となっている.
・環境地質研究部会では，参加人数を増やしたいと考えている．扱う分野は必ずしも即座に実務に結びつかないものの，広範囲な研究対象であり，ジオツーリズムなどとは融和性があるように思われる．応用地質学教育普及委員会と協力して参加者を増やす方策を考えても良い.
・災害地質研究部会では，バランスの取れた年齢構成となっており，現状では問題は無い．ただ，若手の新たな参加は歓迎で，学生の参加もあって良い．部会の開催にあたり，オンラインも併用しているため,部会の委員は多いものの，会合場所の確保に関して問題は生じていない．研究部会ユースは，集まって面白い研究を行うような視点が持てると良い.
・上述の発言を受け，以下のような意見があった.
①「研究部会ユース」は，若手で研究の方向性の定まっていない人の受け皿を目指すのが良いのではないか.
②YEG（Young Engineering Geologists）の日本版のような位置づけで，若手の部会委員に参加してもらい，研究部会と繋がっていくのが良いのではないか.
③若手会員を理事に登用できる制度を設けると良いのではないか.
④研究発表会時の若手交流会等を通じて，発表する機会を与えられた方の中で，学会を牽引していく人が出てくるのではないか.

5. その他
・常務理事により，９月～12月の理事会の日程を調整し，連絡することとなった.